

「リすん 2025 edition」リ・クリエイションシアター

リすん



原作 諏訪哲史

「リすん」講談社文庫刊

脚色 天野天街

演出 小熊ヒデジ

天野天街

出演

加藤玲那

菅沼翔也

ホーボーズ

宮璃アリ

少年王者館

2025年

8月7日[木]→10日[日]

KAAT 神奈川芸術劇場〈大スタジオ〉

主催：ナビロフト

提携：KAAT 神奈川芸術劇場

KAAT

KANAGAWA ARTS THEATRE

助成：芸術文化振興基金助成事業



原作＊諏訪哲史

演出＊小熊ヒデジ＋天野天街

脚色＊天野天街

スタッフ

舞台監督＊山中秀一

舞台美術＊田岡一遠 [マタタキ・マケット]

美術製作＊小道具＊小森祐美加 [マタタキ・マケット]

照明＊福井孝子

音響＊高橋克司

映像＊浜嶋将裕

音楽＊珠水 [少年王者館]

振付＊夕沈 [少年王者館]

衣裳＊雪港 [少年王者館]

チラシ＊アマノテンガイ

写真＊羽鳥直志

プロデューサー＊松浦茂之 [三重県文化会館
副館長兼事業課長]

制作＊小熊ヒデジ

演出助手＊平林ももこ [劇団あおきりみかん]

制作助手＊越賀はなこ／尾國裕子

企画製作＊ナビロフト

協力＊スペシャルサンクス

七ツ寺共同スタジオ／二村利之

寂光根隅的父／名古屋演劇教室

助成＊ 芸術文化振興基金助成事業

りすん

骨髄癌におかされて長期入院中の少女と、
彼女と兄妹同然に育った青年の病室での会話。
中国旅行の思い出や少女の母親のこと、
ヘンテコな言葉遊び——
2人のやりとりが同じ病室の女性患者によって
書かれた物語であったなら……。

小説そのものの作為性に果敢に斬り込んだ芥川賞作家・諏訪哲史の実験小説を、奇才・天野天街が「エンゲキでしかできないアレヤコレヤにオモイキリ変換」した舞台版『りすん』。2010年初演は《伝説の名作》と謳われ、装いを一新して復活上演した2023年版は《新たな伝説の誕生》とまで評される。
2024年7月、天野天街逝去後も止むことのない数多くの再々演希望の声を受け、2025年夏、小熊ヒデジ演出により、さらに強度と濃度を増した『りすん 2025 edition』が、全国五都市を巡る！

(上演時間約1時間 50分)

出演



加藤玲那

菅沼翔也
ホーボース宮璃アリ
少年王者館

「お兄ちゃん、私たちがどうしたら
小説の外へ出られるの？」

盟友天野天街の御魂に 小説家 諏訪哲史

今年も七夕が来る。去年天野さんが渡っていった天の川が頭上に横たわり、帳を降ろした夜が地上の芝居小屋の幕を静かに上げる。この他愛もない兄と妹の小さな小屋、「りすん」という小説を、僕はまるで教会の告解室くらい狭い、囁きの暗室として創った。天野さんはそれを空き函のように開き、無限の舞台に載せてくれた。僕にはない空前絶後の演出の才、その持ち主が、親密な友として同時代の名古屋にいた好運。七夕が来る度、僕は毎年それを噛みしめるだろう。「諏訪くんは戯曲も書ける」天野さんは度々そう言ったが、彼の生前、ついにその本は書かれなかった。いつかあの世で天野さんに逢えたら、今度こそ僕は身を焦がしてそれを書くのかもしれない。今はただ、この小さな祈りの短冊を、天野さんへの供物として笹の葉に結わえよう。

「りすん」について 演劇評論家 安住恭子

またある天野天街の作品の中で、「りすん」は、かなり異色だったように思う。

彼は、美術や音響、映像だけでなく、役者の身体や声までもふくめた、舞台を構成する全ての要素をコラージュし、万華鏡のような演劇を創ろうとした。170人も出演者によって繰り広げられた、彼の代表作の一つ「百人芝居」真夜中の弥次さん喜多さん」は、文字通り万華鏡のような華麗な舞台であった。そうした作品群の中にあって、唯一「りすん」はつましい作品だった。出演者は、血のつながりのない兄と妹と、祖母の3人。舞台美術も透き通る白いカーテンで囲まれたベッドだけ。ベッドに横たわっているのは死の病に冒された妹で、兄と祖母がその看病に訪れる。天野には珍しい日常的な会話劇である。その簡素な会話劇の中に濃密な愛を浮き彫りにした。演出家としての力量を改めて思わせたのである。天野天街が亡くなった、彼の作品を観ることができなくなった。でも「りすん」が再演される。こんなに嬉しいことはない。

2025 8月 7日(木) 19:00 8日(金) 14:00 19:00★ 9日(土) 14:00☺ 18:30★ 10日(日) 14:00

★＝アフタートーク開催 登壇者：諏訪哲史[原作]、小熊ヒデジ[演出] 司会進行：うにたもみち ゲスト：8日 流山児祥[流山児★事務所] 9日 長塚圭史[KAAT神奈川芸術劇場芸術監督/阿佐ヶ谷スパイダース]

☺＝託児サービスあり 公演1週間前までに要予約・有料(マザーズ:0120-788-222)

○開場は開演の30分前。○未就学児の入場はご遠慮ください。

KAAT 神奈川芸術劇場〈大スタジオ〉

入場料金 [整理番号付き自由席]

一般 前売 5,000円 / 当日 5,500円

U-22 前売 4,000円 / 当日 4,500円

※車椅子でご来場の方は購入前にチケットがながわに
お問い合わせください。

チケット発売日

6/7日 10:00

KAme先行発売

6/4日 10:00

チケット
取り
扱い○チケットがながわ <https://www.kaat.jp/>

TEL.0570-015-415 (10:00-18:00)

窓口: KAAT神奈川芸術劇場 2階 (10:00-18:00)

○イープラス eplus.jp (WEB/アプリ/ファミリーマート店舗)○チケットぴあ <https://t.pia.jp/> (Pコード: 534-562)

お問合せ

TEL.090-9929-8459

✉ naviloft1994@gmail.com

主催＊ナビロフト

リ・クリエイション
りすん
2025 edition

KAAT 神奈川芸術劇場

〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町281

TEL.045-633-6500(代表) FAX.045-681-1691

<https://www.kaat.jp/>

●みなとみらい線: 渡港駅から東横線直通で35分! 横浜駅から6分!

日本大通り駅から徒歩約5分。元町・中華街駅から徒歩約8分。

●JR根岸線: 関内駅または石川町駅から徒歩14分。

●市営地下鉄: 関内駅から徒歩14分。

●市営バス: 芸術劇場・NHK前すぐ。

横浜駅前東口バスターミナル 2番のりば乗車(所要時間約25分)

桜木町駅前バスターミナル 2番のりば乗車(所要時間約10分)

※上記のりばから発車するバスはすべて「芸術劇場・NHK前」を通ります。

●神奈川芸術劇場有料駐車場(65台)もご利用下さい。

指定管理者: (公財)神奈川芸術文化財団

【名古屋】7/11(金)～13(日) 名古屋市千種文化小劇場「ちくさ座」

【岡山】7/19(土)・20(日) 岡山芸術創造劇場 ハレノワ 小劇場

【多治見】7/26(土)・27(日) バロー文化ホール 大ホール舞台上

【伊丹】8/2(日)・3(日) アイホール 伊丹市立演劇ホール

